

# グローバル理工人国内研修（オンライン）

2024 Spring – アメリカ・スウェーデン・スリランカ

## 最終報告書

## 目次

<b>1. オンライン研修プログラムの目的</b> .....	3
<b>2. 研修日程</b> .....	4
<b>3. オンライン研修</b> .....	5
3.1. キャリアワークショップ .....	5
3.2. キャリアトーク 1 .....	6
3.3. キャリアトーク 2 .....	8
3.4. 留学トーク .....	10
3.5. キャリアトーク 3 .....	12
3.6. アメリカ .....	14
3.7. スウェーデン .....	17
3.8. スリランカ .....	20
<b>4. 参考文献</b> .....	23

## 1. オンライン研修プログラムの目的

グローバリゼーションの影響により、情報や物流、移動などの効率が大幅に向上する一方で、気候変動や格差などの世界的な課題が顕在化している。2020年初頭から世界的な影響をもたらしたCOVID-19は、社会経済活動に大きな転換をもたらし、高等教育における国際教育もこの例外ではない。この転換により、海外、国内、オンラインなど様々な手段を通じて国際経験を積むことが可能になった。経済的、時間的な制約がある中でも、国際意識を高め、知識やスキルを獲得するために、オンライン上で交流し、場所を選ばずに様々な活動に参加できる国際教育が定着した。本研修科目のシラバスを引用して、この研修プログラムの3つのねらいを以下に示す。

- (1) 対象国（2024年春についてはアメリカ、スウェーデン、スリランカ）の高等教育について、その後のキャリア形成についての理解を深める。
- (2) 「留学」について、デジタル（オンラインでの学習）とリアル（越境移動を伴う活動）の相違点を考察する。
- (3) デジタル化の加速、移動を伴わない繋がりや、異業種/異文化の協働によるイノベーションが必須となるであろうと示唆されている世界で、将来グローバルに活躍するために必要なスキル等について考え、今後の自身のキャリアプランを具体化する参考とする。

また、本研修の到達目標は以下の通りである。

- (1) 自身の将来計画と関連付けた明確な目標を持ち、様々な活動に積極的に参加する。
- (2) 自身と出身国、母語、習慣、文化等が異なる相手と、多面的な視野から交流することができる。
- (3) 対象国の概要・歴史・文化などを説明でき、対象国に関連した自身の学びを深めるために主体的に行動し、今後の留学やキャリアの参考とすることができる。

## 2. 研修日程

本研修は、2024年2月9日（金）から2月28日（水）の内、9日間を使って行われた。各セッションは2時間もしくは1時間であり、1日の最大セッション数は3セッションであった。言語は、他大学との交流および成果発表会は英語で行われ、他のセッションは日本語を用いて行われた。また、本プログラムは全日程がオンラインで行われ、コミュニケーションツールとして、Web会議サービス zoom を用いた。詳細な日程は以下の表 2.1 に示す。

表 2.1 研修の日程と内容（日付及び時間はいずれも日本のもの）

日付	時間	内容
2/09(金)	09:00-11:00	オリエンテーション
	13:30-15:30	キャリアワークショップ前編
2/13(火)	09:00-11:00	4大学ジョイントセッション
	13:30-15:30	交流参加国紹介
2/15(木)	09:00-11:00	キャリアトーク 1(アントレプレナーシップの視点とは)
	13:30-15:30	交流国のデータ比較
	20:00-21:00	KTH(スウェーデン)との学生交流
2/19(月)	10:00-12:00	キャリアトーク 2(政府間トーク)
2/20(火)	09:00-11:00	ジョイントセッション
	16:00-18:00	留学トーク
2/21(水)	10:00-12:00	キャリアトーク 3(学位留学)
	13:30-15:30	LNBTI(スリランカ)との学生交流
2/22(木)	13:30-15:30	LNBTI(スリランカ)との学生交流
	20:00-21:00	KTH(スウェーデン)との学生交流
2/26(月)	13:30-15:30	キャリアワークショップ後編
2/28(水)	09:00-11:00	成果発表会

4大学ジョイントセッションの参加大学は、東京工業大学(日本)、ジョージア工科大学(アメリカ)、チュラーロンコーン大学(タイ)、LNBTI(スリランカ)である。また、本研修で交流した各国の日本との時差はそれぞれ、アメリカ(東海岸): -14h,スウェーデン: -8h,スリランカ: -3.5h, タイ: -2h である。

### 3. オンライン研修

#### 3.1. キャリアワークショップ

##### (1) 前編：2/9(金)

###### ① 小泉先生の基調講演：英語学習への向き合い方

英語でのコミュニケーションで大切なことは以下の3つ。

1. 慣れるための時間（語彙, 文法, 表現）
2. 適切な訓練方法（内容理解と音声素材による音読）  
→ [CNN English Express](#)
3. **偏愛**（何かをしたいという気持ち）

特に大事なものは3の偏愛であり、これを目標にして勉強を行う。この目標設定は人それぞれだが小説の原本を英語で読むことや洋楽を聞いて理解して楽しむことなどが考えられる。



図 3.1.1 小泉勇人先生

###### ② グループワーク：Career 10 Questions を用いて本研修へ臨む気持ちを参加者と共有

大学入学前から現在、そして将来について、自分の興味や今後やりたいことをまとめ、本研修へのモチベーションを参加者と共有した。これから研修を行っていく仲間のことについて知れたことはとても良かった。とても高いモチベーションで挑んでいる人もいて、刺激を受けることができ、研修への姿勢を見直すことができた。

##### (2) 後編：2/26 (月)

###### ① 井上先生の基調講演：自分のアップデート

1. 不確実な状況で役に立つマインドセット  
→受け身ではなく、自分で未来を作りコントロールしていく
2. 対話力  
→質問することの重要性

<ここから得た学び>

人の話を聞くと聞くとときに質問を考えながら聞くことは、とても重要だと感じた。自分で意見を持つことで知見や景色も広がってくると思う。



図 3.1.2 井上あきの先生

## ② グループワーク：KPT 法を用いた研究の振り返り

KPT 法とは、以下の3つの事項に分けて対象の問題を整理していくことである。

- K(Keep)：これからも続けていきたいこと，良かったこと
- P(Problem)：問題だと思ったこと，改善していきたいこと
- T(Try)：今後挑戦していきたいこと，今後も続けていきたいこと

KPT 法を用いたグループワークで，多くの人が本研修で自分の定めた目標をクリアしていた。そして，一番良かった点は全ての人々が本研修を楽しんでいたことだった。色々な方向に興味を持ち，それに挑戦していくことがこれからの大学生活には重要だと感じた。



図 3.1.2 KPT 法についてのスライド

## 3.2. キャリアトーク 1：2/15(木)

### (1) 成田海氏

#### 《キャリア紹介》

- 2010 - 2014 東京工業大学工学部金属工学科
- 2014 - 2016 東京工業大学材料工学専攻修士課程
- 2016 - 2021 カリフォルニア工科大学材料科学科博士課程
- 2021 - 2022 24M Technologies
- 2022, 23 - 3D Architech (創業者・CEO)
- 2022/6 - MIT 客員研究員



図 3.2.1 成田海氏

#### 《講演内容 (Deep-Tech 創業)》

成田氏が海外大学院に留学しようと思われたきっかけは，大学四年の時に同じプログラムに参加した学生の発言である。博士課程三年生で，周りに起業している人が多く，起業を考えたとおっしゃっていた。選択肢として，アカデミア，就職，政府系機関，非営利法人などもある中で起業を選んだ理由は，夢である「材料開発で世界に影響を与えたい」ということと，0~100 までを考える研究者でありたいということからだとおっしゃっていた。また，起業という選択肢をとることが出来た理由としては，周りに起業経験者が多くいたこと，起業のフェローシップのファイナリストに選ばれたこと，大手企業から多く声がか

かり、自分の市場価値を知ったことで、たとえ失敗してもキャリアに困らないであろう自信を持たれたことを挙げられていた。研究におけるアカデミアと創業の違いはアカデミアにおいては広い分野に影響力があることが重要であり、事業においては課題解決が重要であることだとおっしゃっていた。最後にまとめとして、「海外留学は選択肢を広げる」、「起業はやるかやらないか」、「Deep-Tech 創業は大変で学ぶことが圧倒的に多い」ということを挙げられていた。

## (2) 菅野流飛氏

### 《プロフィール》

菅野氏は東工大高専を卒業後、東工大の博士課程まで進学。インドへの旅行やスウェーデンへの留学などを経験。その後、ベンチャー企業に就職したが虚無感を感じ、2017年に高専キャリア教育研究所を設立。その後会社を売却し、現在は『千年の都京都で新たな産業を生み出す』と題して京都で京都大学と協力体制をとり、新しいスタートアップスタジオの事業を展開している。



図 3.2.2 菅野流飛氏

### 《講演内容(アントレプレナーシップについて)》

起業経験があり、現在も新しいスタジオを作られている菅野さんから、アントレプレナーシップと呼ばれる起業家理念についてのお話を伺った。まず初めにアントレプレナーシップを考える上で、右の写真のように分類分けして考えた。その上で知的（知識、思考のフレームワーク、経験）かつヤンキー（自律的、実践的、集団的）な人材がアントレプレナーシップを持ち、イノベーションを起こすと考える。菅野さん自身は学生時代から上に行くことを目指していて、会社に入っても優秀だったが、何をやっているのだろうという感覚に襲われ、自分の力で立ちあがろうと決心した。息子が生まれたことをきっかけに、高専をいい学校にしなければという使命感を抱き、高専キャリア研究所を設立した。企業からはいい人材の宝庫であるのに、うまくいかせていないとも思いもあり起業した。全国の高専生や卒業生とコミュニティーを持ち、メンバーを巻き込むことでスタジオの事業運営を実現できた。



図 3.2.3 アントレプレナーシップについて

起業する上で大切なことは、「who」であると菅野さんは考える。誰のために、誰を幸せにしたいのか、という顧客のニーズを考えることで目的がはっきりするだろうし、モチベーションにもなるため、東工大の学生にも是非、培った技術を活かしてほしいと期待していた。

### (3) 質疑応答

質疑応答ではまず、自分が何をしたいかを参加者で議論した。将来、自分の研究を進めたい人や、新しい自分の道を見つけたいといった人がおり、自分の将来を考える良い機会となった。起業を含めた自発的な行動をとる方法についての質問に対して、同じ考えや行動している人が多いような環境に自分の身を置くことで、自分の哲学を磨き、自身を確立できるというアドバイスをいただいた。また、将来の選択肢を増やすという意味で、海外の大学に留学するなど、さまざまな環境を体験することが大切だとおっしゃっていた。

## 3.3. キャリアトーク 2 : 2/19(月)

### (1) 森本有香氏

森本有香氏は経済産業省で働いており、大臣官房業務改革課にて政策評価などに関わっている。今回は「留学経験とこれまでのキャリア」をテーマとして東工大在籍中での数々の留学の体験談や官公庁での国を背負った仕事内容、また夫婦での家事・育児の分担についてなど、これからの時代を生きるうえでとても重要な話を伺うことができた。

森本氏は学士課程在籍中に4回、修士課程在籍中に2回、計6回の留学経験がある。最初はフィリピンやベトナムなどで短期の留学から始め、修士課程でフィンランドへ4カ月の派遣交換留学に挑戦した。フィンランドでの留学では環境問題を主に学び、政策の重要性を認識したことが現在の経済産業省のキャリアに結びついている。留学は最高の仲間が世界に出来ることや、困難なことを乗り越えながら成長できることなど良いことばかりであるとおっしゃっていたのが印象的であった。また留学にかかる費用を具体的に説明していただいたので将来留学をするために



図 3.3.1 森本有香氏

#### 留学経験

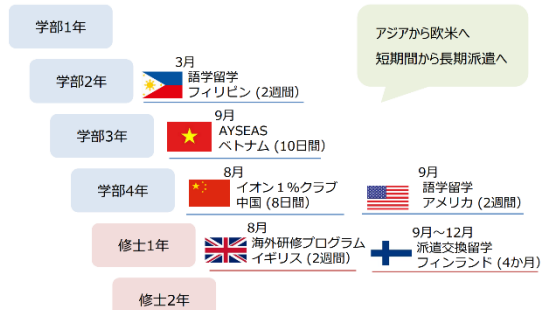


図 3.3.2 森本氏の留学経験



確保すべき資金の参考になった。留学では費用以上の経験が得られることは間違いないと感じた。

就職活動ではエネルギー・環境分野に貢献したい、国際的業務に関わりたいといった思いを軸とし、政策の影響力や育児との両立などが決め手で経済産業省に入省した。経産省ではG20の対応を行い、その後外務省に出向するなど国際的に活躍をされてきた。G20でイタリアの大臣と良好な関係を築くといったエピソードからは、留学において積極的に異なる国の人々と関わってきた経験が活かされていると感じた。精力的に仕事に打ち込む一方で現在は育児との両立もおこなっている。育休取得後は夫婦での家事の分担、テレワークの導入などによって仕事と育児の両立につながっているようであった。復職するときに大変だったことを伺ったところ、休職期間中にコミュニケーションツールはじめ省内の業務システムが変わっていたことが大変であったとおっしゃっていた。それでも同僚の方々のフォローに助けられたと語っており、育休への理解を示すことが大切であると感じた。

最後に、学生時代にいろいろなことに挑戦して交友関係を広げてほしいとおっしゃっていた。この言葉は私にとって海外留学への一歩を踏み出す勇気を与えてくれた。

## (2) 関一樹氏

関一樹氏は約7年前に東京工業大学の修士を卒業し、現在はJICA（国際協力機構）で働いている。今回の講演では、大学卒業後のキャリアで学んだことについて話していただいた。JICAで扱うプロジェクトをはじめ、グローバルなプロジェクトなどでよく起きる複雑な状況で働くうえで、他者への共感（エンパシー）と客観的な自己評価が非常に重要である。他者が私たちについてどう考えているか、またはプロジェクトの利害関係者が望んでいること、望んでいないことを想像し、最適解を導くことがプロジェクトを成功させるために必須である。



図 3.3.3 関一樹氏

キャリアを組み立てる上では、常識を疑うべきだ。常識は誰かが作ったものであり、それが唯一の正解ではない。様々な変化を、身をもって体感している私たちの世代にはロールモデルがない。重要なのは、自分で何をするか、したいかを決めることだ。その際、育休や教育プログラムなどの使える制度は最大限活用して自分のキャリアを設計するとよい。

また、私たちが学生の間でできることを教えてくれた。一つ目は、留学や海外インターンシップなど、他の国での経験を積むこと。

日本では気づかないようなこと、例えば日本がどれほど特異な国かを実感できるなど、日本を俯瞰でき、視野を広げることができる。二つ目は、研究や論文執筆に励むこと。これにより、客観的に物事を見るスキルを身につけることができる。三つ目は、幅広いジャンルの本を読むこと。本からは幅広い分野のことを学ぶことができる

うえ、本を読むこと自体が楽しい。最後に、就職活動の後のキャリアも考えること。就職が目標ではなく、これが新しいキャリアの始まりであるべきだ。



図 3.3.4 関氏のスライド発表

### 3.4. 留学トーク：2/20(火)

国内研修5日目には、留学経験に関するお話を草野千恵氏、門脇大真氏から伺った。両氏とも一度社会人となった後、休職期間を利用してスウェーデンのウプサラ大学への留学を経験している。ウプサラ大学は北欧最古の大学とされ、教育学、生命科学、材料科学、平和学などにおける研究が有名である。

#### (1) 草野千恵氏

草野千恵氏は、2023年1月から12月まで約1年間に渡ってスウェーデンのウプサラ大学への留学を経験された。草野氏は大学法学部を卒業後、公共系団体に就職するが、「徐々に地域課題の解決や地域の活性化に関わる人々の関係性について学びを深めたい」との思いを強く持つようになる。2021年春には職場の休職制度を利用し、東京工業大学環境社会理工学院に進学。しかし、コロナ禍により研究のための実地調査を思うように実施できない状況に追い込まれる。休職期間を過去の前例と文献の調査だけで終えてよいのかという焦りが募る中、周囲の学生からの刺激やパートナーの後押しもあり、留学について真剣に検討するようになる。休職期間終了後は元の職場へ復帰することを考えていた草野氏は、今が最後の機会だとして留学を決意する。



図 3.4.1 草野千恵氏

草野氏は講演の中で、現地での様々な体験ともに、自身の学びを語ってくださった。特に印象深かったのは、現地の生活に馴染むことはその生活を満喫していることとは同じではないという指摘である。実際の留學生活の中で、授業や課題、食事、買い出しなどで一日が完結し、他人と「会話らしい会話をしない日もあった」そうだ。その反面、新しいスポーツを始めてみたり、お祭りの準備に参加したり、nation と呼ばれる学生組織に参加したりするなど、現地でしか得られないユニークな活動に積極的に参加されていたことも印象的であった。留學生活を満喫するには、「『その時期の自分』にしか味わえない経験」を自らの手で取りに行かなければならない。もちろんそこには幾分かのストレスや失敗が伴うが、苦い経験も含め、結果として自らの幅を各段に広げてくれるに違いない。このようなことを認識させられた講演であった。

## (2) 門脇大真氏

門脇大真氏は2022年に東京工業大の社会・人間科学コース修士課程に進学され、2023年8月から2024年1月まで半年の留學をしている。都市計画や街づくりといった、地元の人も気づいていないような魅力の発掘といったことに興味があったそうだ。留學の目的は、比較対象となる価値観を持つためであったという。すでにアメリカで生活したことがあり、資本主義的価値観の強いアメリカとは真逆の北欧諸国の生活に触れたい、また、北欧は日本でユートピアのように描かれることも多く、北欧の街づくりにつ



図 3.4.2 門脇大真氏

ての関心も強かったという。留學を通して、困難は乗り越えられるというメンタルと、自分にどのような社会があっているのかということが理解できたとおっしゃっていた。また、修士留學においての苦勞もお話しくくださった。修士課程の二年間で、卒業に必要な単位の取得、就職活動、留學、研究と修士論文執筆などやることが様々あり、修士論文をスウェーデンで書くにあたって、データの収集はすでに日本で済ませて解析や考察などを行っているとのことだった。さらに、お二人とも今後の予定についてお話しくくださった。草野さんは3月に大学院を修了して4月から復職され、今後数年以内に海外事務所への勤務を望んでいるとのことだ。また、門脇さんは街づくり系の企業に就職する予定で、将来的には街づくりや政策科学を学びなおすために社会人博士も検討しているとのことであった。実際の留學についてのお話を聞くことで、留學中の具体的な生活の様子や、留學で得られるものをイメージすることができた。

### 3.5. キャリアトーク 3：2/21(水)

#### (1) 古橋知樹氏（南洋理工大学理学院数物理学部物理学科博士）

古橋知樹氏は2018年に東京工業大学物質理工学院応用化学系修士課程に進学され、現在は南洋理工大学理学院数物理学部物理学科博士課程に在籍中である。学士時代から国際開発活動に携わり、スリランカをはじめ、様々な国に行かれています。今回、古橋氏は『競争社会で競争しない人 海外との関わりで得られた3つの指針と人生観』という題目で、キャリアについてお話してくださいました。



図 3.5.1 古橋知樹氏

この講演は「キャリアとは？」そして「いいキャリアとは？」という問いを古橋氏が私たちに投げかけられることから始まった。いいキャリアとは、やりたいことを仕事にしていること、と世間一般では思われがちである。しかし、これに対し古橋氏は、やりたいことというのはあくまでも手段であり、本当に大事なものは自己実現を図っていく、つまりどういう自分でありたいかを見つけることがキャリアで大事なことでであると述べられた。古橋氏は海外との関わりという手段を通じて、他人軸を分離した自分軸の人生観を手に入れられたようだ。

古橋氏は修士課程時代、精神的に追い詰められ、大学に行けなくなった時期を経験している。家に塞ぎ込んでしまっていたそんなある日、「このままではいけない、変わらなければ。もう一度、海外に行きたい。」と思われたのである。その後、無事合格を勝ち取り、南洋理工大学で学生生活を送ることになった。この学生生活を通じて3つの指針を手に入れられた。3つの指針とは以下の通りである。

1. 変えるべきものを変える勇気
2. 変えられないものを受け入れる平静さ
3. 変えることができるものとできないものを見分ける賢さ

そしてこれらの指針を基に、「競争社会の果てに何があるか？」を考え、人生を俯瞰して見ることで、他人と自分を分離した自分軸の人生観を手に入れられたようだ。その人生観とは、競争社会を生きているが、他人と比べたり競争したりしなくて良い、最期の瞬間「悪くない人生だった」と思えるようでありたい、そのために楽しいことを最優先させようというものである。古橋氏の定義する“楽しいこと”とは大変だけど充実した時間を過ごすことや、友だちと様々な経験をし、笑い合うことなどである。

最後に、「教育とは？」という問いを投げかけられた。それに対し「安全に失敗できる場」と結論を導き出し、変わりたいと思った瞬間に人はいつでも変わることができる、変わるのに遅いも早いもない、という力強い私たちへの励ましのメッセージと共にご講演を締めくくられた。

成長し、変化し続けていくことは生きていく上でとても重要なことだ。しかし、その一方で、変えられない自分やありのままの自分を受け入れることも非常に大切であることを今回のご講演を拝聴して学んだ。また、私も古橋氏のようにその時その時でしか体験できない“楽しいこと”を悔いの残らないようにしていきたいと強く思った。

## (2) 石曾根香奈氏

私たちは石曾根香菜さんのお話を聞いて海外で研究をするという選択肢について知れた。石曾根さんは 2019 年度に東工大物質理工学院材料系にて修士課程を修了し、2023 年 9 月にフランスのストラスブール大学にて化学物理学専攻の博士課程を修了した。2024 年 1 月からはアメリカのシカゴ大学でポストクに就く予定である。私は石曾根さんの講演から大きく 3 つのことを教わった。それは、「海外の大学では様々な研究者と会う機会が増える」「お金の面でも負担は少ない」「TA などの仕事の義務がなく研究に集中出来る」といったことである。私はこれまで海外で研究するという事は選択肢として考えていなかった。なぜなら、周囲に博士課程を希望する人がいなかったり、英語への不安があったりすることから学年が上がるにつれて無意識に除外していたからである。しかし、今回の話を聞いて海外で博士課程へ進むというのは十分あり得るキャリアの選択肢の 1 つだということを知ることが出来、良い機会になった。

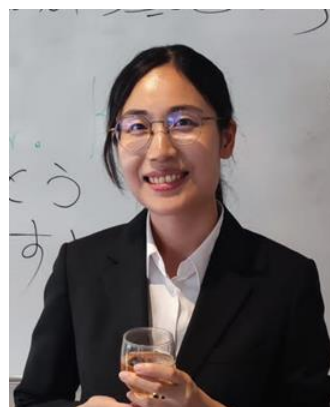


図 3.5.2 石曾根香奈氏

## 3.6. アメリカ

### (1) アメリカの概要



図 3.6.1 アメリカの地図およびアトランタの位置  
(©OpenStreetMap contributors / CC BY-SA)

表 3.6 アメリカ合衆国の概要

人口 (2023/10 : 米統計局推計)	約 3 億 3,500 万人
面積	約 983 万 km <sup>2</sup> (日本の約 26 倍)
首都	ワシントン D.C.
言語	英語 (法律上の定めはない)
宗教	主にキリスト教 (信教の自由を憲法で保障)
政治体制	大統領制, 連邦制
GDP (名目, 2022)	25 兆 4627 億ドル (世界一位)
一人当たりの GDP (2022)	76,398 ドル
主要産業	工業 (全般), 農林業 (小麦, トウモロコシ, 大豆, 木材他), 金融・保険・不動産業, サービス業

アメリカは主に北米大陸中部に位置する。国土が広く、熱帯(フロリダ南部とハワイ等), 乾燥帯(本土西部の内陸), 温帯(本土南東部とアラスカ南部の沿岸部), 冷帯(本土北部とアラスカの大部分), 寒帯(アラスカ北部)が揃う。名目 GDP は世界一位で、二位の中国の 1.5 倍程度であり、言わずと知れた経済大国である。また、「人種のサラダボウル」とも呼ばれ、多人種、多民族社会である。しかし、少なくともジョージア工科大学の位置するアトランタにおいては、都市内に危険な地域があったり、大学キャンパス外に一人で行くべきではないといわれていたり、安全面に不安が残る点もある。政治面では、二大政党である

民主党, 共和党の政治的分断が進んでおり, 両党の支持者の中で社会的分断も進んでいる。この分断は, 2024 年最大のリスクにも挙げられている。

## (2) ジョージア工科大学の概要

ジョージア工科大学は 1885 年に創設された世界を代表する工科大学の一つである。ジョージア州アト



図 3.6.2 ジョージア工科大のロゴ

ラント市に位置し, 45000 人以上の生徒を抱える。MIT やカルフォルニア工科大学とともにアメリカ工科大学の御三家と呼ばれている。特に工学とコンピューターサイエンスに力を入れており, 工学部は全米 4 位, 世界 9 位に位置づけられている。Buzz と呼ばれるキイロスズメバチのマスコットが有名であり, フットボールの試合などで登場する。

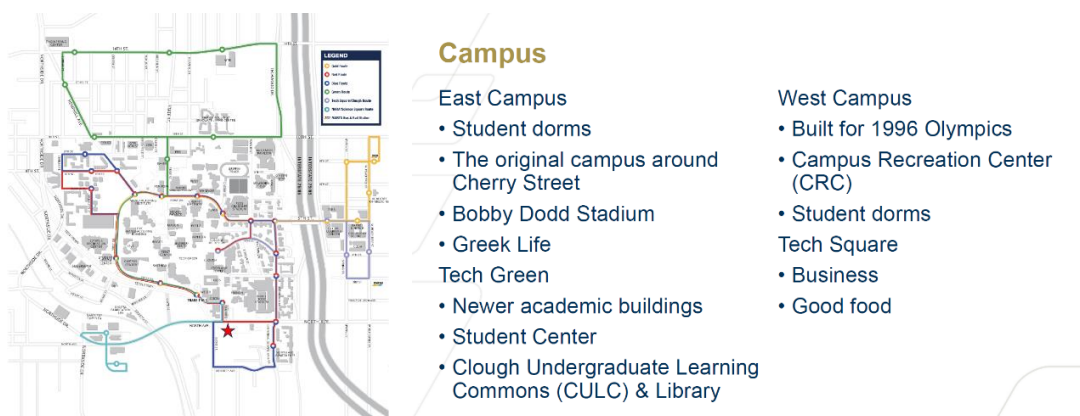


図 3.6.3 ジョージア工科大のキャンパスマップ

学生活動について, ジョージア大学に通う Xie Yu Chen さんが学生活動について紹介してくださった

また, ジョージア大学の位置するアトランタについても紹介してくれた。アトランタでは BBQ や南アメリカ料理, アメリカンなパブなどが楽しめる。また, アメリカの公民権運動の発祥の地であるなど文化的な側面もある。またアトランタでは MARTA と呼ばれるバスと電車を含めた交通機関がある。また, キャンパス内では夜でも安全だが, キャンパス外は危険であるなど, 実際に留学する上での注意点を教えてくれた。

## (3) ジョイントセッションについて : 2/13(火), 2/20(火)

### ①学生交流の概要 : 留学とキャリアについて

事前に各自が母国に関する Zoom の背景を設定しておき, まずアイスブレイクとして, 設定した背景の説明や各国のおすすめの場所を紹介した。その後, 学修, キャリア, 趣味な

どの項目に分けてこれまでの経験と将来のプランについて議論した。将来の夢は持っていないけれども、将来やってみたい趣味や大きい人生の目標などは皆持っていて刺激を受ける交流であった。

<発見したこと>

海外の学生は、日本の学生よりは起業など自分の手で将来のキャリアを作り上げそれをコントロールしていきたいという傾向が強いことに驚いた。また、これは日本の学生も含めて海外への興味が非常に強く、それぞれに努力していることがあった。

## ②異文化理解ワークショップの概要

各国の文化の違いを共有して、その理由となっている文化的背景や、多文化チームが問題なく活動していくための対策などについて議論した。

<発見したこと>

率直に意見を言うか、回り道をして意見を伝えるかなど、企業や大学での研究など問題になりそうな問題が多くあることに気づくことができ良かった。そして、それには必ず理由が存在し各国の学生にリアルな話を聞いたのがとても良い経験だった。

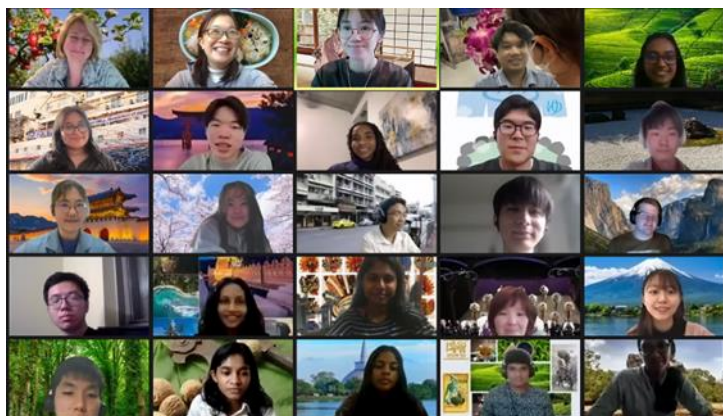


図 3.6.4 ジョイントセッションの様子



### 3.7. スウェーデン

#### (1) スウェーデンの概要

2/13(火)に KTH(スウェーデン王立工科大学)から東工大への留学生, Carl Bermhed さんよりスウェーデン及び大学の紹介を受けた。その内容を含め, スウェーデンの概要を記す。



図 3.7.1 スウェーデンの地図と  
ストックホルムの位置 (2024, 外務省)

表 3.7 スウェーデンの概要

人口 (IMF 2022 年)	約 1,052 万人
面積	約 45 万 km <sup>2</sup> (日本の約 1.2 倍)
首都	ストックホルム
言語	スウェーデン語
宗教	福音ルーテル派 (キリスト教)
政治体制	立憲君主制
GDP (IMF 2022)	5,859 億ドル
一人当たりの GDP (IMF 2022)	55,689 ドル
主要産業	自動車を含む機械工業, 化学工業, 林業, IT

#### <地理・社会・経済・文化的特徴>

スカンディナヴィア半島の東側に位置する。国土の大部分は冷帯に属するが, 南部は北大西洋海流の影響を受けて温帯となる。真冬のストックホルムの日照時間は約 6 時間と短く, 真夏は, 約 19 時間の日照時間と長い。

Fika はスウェーデン人にとって欠かせないコーヒーブレイクのようなものである。10 時頃と 15 時頃に, 15 分程度設けることが多く, 多くの企業が設定している。一度手をとめ, 甘いものと一緒にコーヒーを飲んだりコミュニケーションをとったりしてリフレッシュする。なお, ロシアのウクライナ侵攻をうけ, 長年続けてきた軍事的な中立の方針を転換

し、2024年3月にNATOに加盟した。ジェンダー平等が進んでいる国としても知られており、ジェンダーギャップ指数は世界5位。

## (2) スウェーデン王立工科大学

### ①スウェーデン王立工科大学の概要

スウェーデン王立工科大学は、首都ストックホルムに位置するスウェーデン最大の理工系総合大学である。略称はKTHであり、当大学のスウェーデン語名 Kungliga Tekniska Högskolan の頭文字に由来する。2024年のQS世界大学ランキングでは約1500大学中73位であり、北欧圏の大学では最上位となっている。KTHの歴史は古く、前身の Laboratorium mechanicum は1697年に創立、現在のKTHは1827年に Teknologiska institutet として設立されている。ストックホルム周辺に4つのキャンパスがあり、Architecture and the Built Environment, Electrical Engineering and Computer Science, Engineering Sciences, Engineering Sciences in Chemistry, Biotechnology and Health, Industrial Engineering and Management の5つの学部を擁する。学生数は約17000人であり、100近いプログラムを提供しているとともに毎年約200人の交換留学生を受け入れるなど、内外の多くの学生がKTHで学んでいる。特に交換留学生に対する支援が手厚く、部屋探しの支援、毎月SEK 9,000~12,000（日本円にして約12~17万円）の資金援助などがあり、留学先として非常に魅力的な大学である。



図 3.7.2 KTH のロゴ



図 3.7.3 KTH の航空写真

## ②学生交流 (2/21, 22) の概要

スウェーデン王立工科大学(KTH)の学生との交流は2/15と2/22の2日にわたって行われた。それぞれ4~5人程度のブレイクアウトルームに分かれ、まずは決められたトピックについて議論し、時間が余れば自由に雑談をすることができた。

2/15の学生交流では事前にお互いの国について聞きたいことをスプレッドシートに記入し、その中から聞きたい項目を選んで質問をしあうという形式であった。KTH生は日本語で、東工大生は英語で質問をした。KTH生からの質問では日本の労働環境や社会問題についての質問が多かった一方、東工大生からの質問ではジェンダーや、教育についての質問が多かった。「ブラック企業」といった日本の社会問題がスウェーデンの学生たちに浸透していたことは意外であった。日本では一度就職したら同じ企業でキャリアを積む「終身雇用」が一般的であるが、スウェーデンではキャリアアップのためであれば転職を厭わず、キャリアに関して柔軟であることが興味深かった。お互いの文化について非常に興味を持っていることが感じられる質問が多く、文化について理解を深める良い機会であった。

2/22の学生交流ではスウェーデンと日本のニュース記事の一覧のなかから好きなものを選んで自分の意見を述べたり、質問をしたりした。例えば東工大の学生の男女比について触れ、女子枠を導入することに賛成か反対かなどを話し合った。KTH生に所属する専攻の男女比について聞いたところ、200人中30人ほどが女子であると答え、意外に少ないと感じた。自分の専攻には全学生40人に対し女子生徒は2人のみであると伝えたところかなり驚いており、大学における性の多様性の重要性を再認識した。このグループワークでは普段あまり触れることがない世界のニュースについてほかの学生と議論できたことが非常に新鮮であった。



図 3.7.4 KTH 学生とのグループワークの様子

## 3.8. スリランカ

### (1) スリランカの概要

表 3.8 スリランカの概要

人口 (2022：スリランカ中央銀行)	約 2,218 万人
面積	約 6.6 万 km <sup>2</sup> (北海道の約 0.8 倍)
首都	スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ
言語	公用語:シンハラ語, タミル語, 連結語:英語
民族	シンハラ人(75%), タミル人(15%), スリランカ・ムーア人(9%)
宗教	仏教(70%), ヒンドゥー教(13%), イスラム教(10%), キリスト教(8%)
政治体制	共和制
GDP (2022：スリランカ中央銀行)	771 億ドル
一人当たりの GDP (2022：スリランカ中央銀行)	3474 ドル
主要産業	農業 (紅茶, ゴム, ココナツ, 米作), 繊維業

スリランカの面積は北海道の 0.8 倍ほどで、人口は東京都と神奈川県を足した人数にほとんど等しい。人口密度は日本とほとんど同じである。名目 GDP は世界 77 位である。経済は不安定であり、2022 年には首相が「国家破産」を宣言した。原因としては慢性的に続いていた貿易赤字に追い打ちをかけるように、新型コロナウイルスの流行による観光収入の減少である。また、中国に対する債務の膨張も問題となっている。中国からのインフラ建設資金の受け入れによる債務が増大し、返済不能に陥った事態が発生している。国土には豊かな自然があり、様々な観光地がある。特に、スリランカの観光地として有名で、LNBTI との学生交流の際にも現地の生徒が勧めていたのがシギリアである。シギリアはスリランカの中央部に位置し、195m の岩山にある古代遺跡である。美しい自然と歴史的な価値が融合しており、国内外で有数の観光スポットであるという。

## (2) 学生交流について：2/21（水）、2/22（木）

### ① LNBTI の概要

LNBTI (Lanka Nippon Biz Tech Institute) は、スリランカ最大の都市コロomboの郊外に位置する都市マハラガマの中心部に位置し、スリランカ各地から学生が集まる。

「スリランカで学位を取得し、日本で IT プロフェッショナルとして働く」というユニークなパッケージを提供しているためだ。

日本のメタテクノ株式会社と hSenid Group of Companies の合弁事業の一環として 2016 年に設立された、南アジアで学位を授与できる唯一の日本の高等教育機関。

深刻な IT 人材不足である日本で活躍できる人材の輩出を目指している。そのため、LNBTI のカリキュラムでは高い IT スキルを身につけることができるだけでなく、高い英語力と日本語力、また日本のビジネス・文化を学ぶことができる。東京工業大学を始め、日本のいくつかの大学の学生と交流することができる。成績が優秀な学生を対象に日本への無料スタディーツアーも実施している。

LNBTI は現在、日本の大学で最後の 2 年間で修了するための日本の大学への学位取得経路と、受賞歴のある英国の名門大学であるグリニッジ大学の英国の学位プログラムをスリランカで修了できる学位取得経路を提供している。

交流会で話すことができた LNBTI の学生さんは日本が大好きで、沢山日本のことを知ってくれていた。彼との交流を通じて私もスリランカについてもっと知りたいと思った。近い将来、友だちになれた彼と日本もしくはスリランカ（はたまた他の国かもしれない）で直接会えることを心から願うばかりだ。

### ② 学生交流の内容

#### ≪1 日目 (2/21) ≫

交流 1 日目にはまず、東工大と LNBTI の学生がスライドや動画を用いて、お互いの大学について紹介し合った。その後は 8 個のグループに分かれてグループワークを行った。最初のグループワークでは、アイスブレイクとして自己紹介やお互いの大学紹介を見て感じたことや疑問に思ったことを話し合った。その後は、自分の好きなものを紹介し、その感



図 3.8.1 LNBTI のロゴ

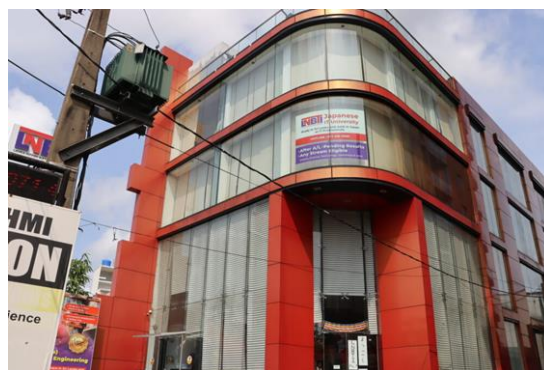


図 3.8.2 LNBTI の校舎

想を伝え合うなどして交流を深めた。LNBTIの学生が日本語を勉強しているということで、日本語と英語を織り交ぜながらの交流となった。

《2日目 (2/22)》

交流2日目には1日目と同じグループでグループワークを行い、前半は自分の国の良い点、悪い点を考えた後、相手の国について考えたことや感想を伝えあった。後半は、お互いのキャリアプランを共有し、お互いの将来構想について似ているところ、違うところについて話し合った。LNBTIの学生は日本語を学んでおり、日本への留学を考えている学生や日本で就職したいと考えている学生もいた。

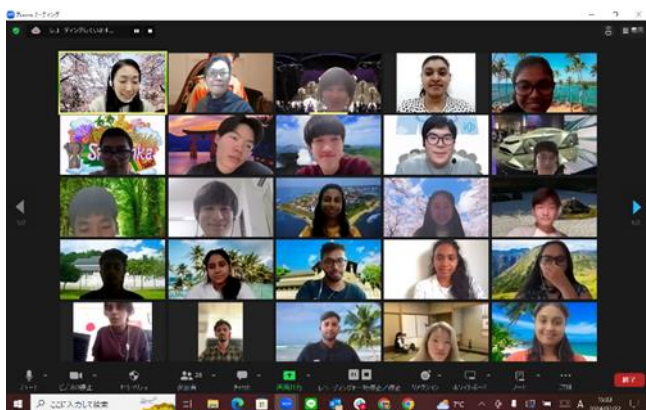


図 3.8.3 LNBTI 学生との交流の様子

#### 4. 参考文献

##### 1. オンライン研修プログラムの目的

- [1] 東京工業大学, 2023 年度 グローバル理工人理工人国内研修 1B,  
TOKYO TECH OCW  
<http://www.ocw.titech.ac.jp/index.php?module=General&action=T0300&JWC=202331250&lang=JA&vid=03>. 2024 年 3 月 13 日閲覧

##### 3.6. (1) アメリカの概要

- [2] 外務省, アメリカ合衆国 基礎データ, 2023 年 12 月 1 日,  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/data.html>. 2024 年 3 月 5 日閲覧
- [3] 帝国書院編集部編, 2022, 新詳高等地図, 帝国書院
- [4] NHK, ことし最大のリスクは「アメリカの分断」米調査会社, 2024 年 1 月 9 日,  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240109/k10014314351000.html>.  
2024 年 3 月 16 日閲覧
- [5] Open Street Map, <https://www.openstreetmap.org/copyright>. 2024 年 3 月 18 日  
閲覧

##### 3.6. (2) ジョージア工科大学の概要

- [6] Georgia Institute of Technology, Georgia Institute of Technology,  
<https://www.gatech.edu>. 2024 年 3 月 17 日閲覧

##### 3.7. (1) スウェーデンの概要

- [7] 外務省, スウェーデン王国 基礎データ, 2024 年 1 月 29 日,  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/sweden/data.html>. 2024 年 3 月 17 日閲覧
- [8] 国土交通省国土政策局, スウェーデンの国土政策の概要, 2014 年 3 月,  
<https://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/international/spw/general/sweden/index.html>. 2024 年 3 月 17 日閲覧

##### 3.7. (2) ① スウェーデン王立工科大学の概要

- [9] KTH Royal Institute of Technology, About KTH,  
<https://www.kth.se/en/om/fakta>. 2024 年 3 月 6 日閲覧

##### 3.8. (1) スリランカの概要

- [10] 外務省, スリランカ民主社会主義共和国 基礎データ, 2024 年 3 月 14 日,  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/srilanka/data.html>. 2024 年 3 月 17 日閲覧

[11] 堀江 正人（三菱 UF J リサーチ&コンサルティング），スリランカ経済  
危機の背景～経済危機の根本原因はコロナショックではなく過去の経済運営  
にあり～, 2022 月 10 日 13 日,

[https://www.murc.jp/library/economyresearch/analysis/research/report\\_221013/](https://www.murc.jp/library/economyresearch/analysis/research/report_221013/).

2024 年 3 月 17 日閲覧

### 3.8. (2) ① LNBTI について

[12] 株式会社メタテクノ, 弊社子会社であるスリランカの高等教育機関 LNBTI  
が 4 年制の大学としてスリランカ政府に承認されました,

<https://www.meta.co.jp/news20220629-01/>. 2024 年 3 月 17 日